

第60回環境保健夏季大学報告

健康づくり「フレイル」

1日目は健康づくりをテーマにした研修を行いました。まず、「住民の健康づくりに関する取組について」地域づくりと通いの場を中心として、「歯と口腔」をテーマとして、広島県健康福祉局健康づくり推進課の南課長に、広島県の取り組みについて情報提供をしていただきました。

広島県の健康づくりの現状について話され、特に「地域づくりと通いの場」について、高齢化による介護・福祉の問題、地域のつながりの衰退等の課題が、「高齢者」をきょうけに改善する場として紹介されました。この「通いの場」が、今後の公衛協の活躍の場になりうることを教えていただきました。

続いて、当協会職員

が講師を務め、フレイルに関するミニ講座と、ストレッチポールを使った足裏を中心としたストレッチを体験しました。

午後は、「歯と口腔から始める健康生活」と題して、広島県歯科医師会地域保健部常任委員で、水野デンタルクリニックの水野院長にご講演をいただきました。

歯の大切さや歯を失う原因、全身疾患のリスク、口腔ケア用品の使い方や口を鍛える「かみかみ百歳体操」などを教えていただきました。

参加者からは、「歯磨き粉は必要か」「かみかみ百歳体操で、特に行うとよいものは？」などの質問があり、参加者の口腔ケアへの意識の高さがうかがえました。

最後に、当協会の佐藤理事長から府中市公衆衛生推進委員会連合会の下会長に修了証が手渡され、1日目のプログラムを終えました。

環保協では、重点メニュー「歯と口腔から始める健康生活事業」を展開しており、学習会や受診動員を行っていますので、今後の公衛協事業にお役立てください。



水野先生から、歯周病が全身に及ぼす悪影響を学ぶ

夏季大学2日目 講演要旨 災害時の公衛協の可能性



特定非営利活動法人
ひろしま NPO センター
理事 増田 勇希氏

今日は、災害が起きた後の復旧・復興の部分に焦点をあて、「受援力」と「多様な支援」についてお話しし、公衛協活動の可能性に繋がるアイデアをお渡しできればと思っています。

二つ質問します。①お住いの地域で被災経験がありますか?→半分ぐらい手があがりました。②災害ボランティアに関わったことがありますか?→かなり手があがりましたね。それぞれ、状況や事情が異なるとは思いますが、自分のまちなら考えながら聞いていただければと思います。

さて、最初に発災時にどのような支援があるかについて話します。

現在、個人・企業・NPO・市町など多くの支援環境が整ってきています。市町等行政は、医療の提供、インフラ復旧の公助をしてくれます。環保協が坂町の避難所で運動支援をされていたように、よりきめの細かい支援である共助は、様々な企業・団体が、炊き出しや子どもの預かり、罹災証明や保険の助言、家屋の復旧など多種多様な活動が行われています。

実は、これらのたくさんの方々の共助は、均等に行き届くわけではなく、ムラが発生しています。ここで大事になるのは、多くの支援や協働を活かす『受援力』です。

『受援力』とは、地域住民が、さまざまな支援を受け入れ活かしながら、ボランティア等と一緒に取り組んでいく力のことです。

具体的に言うと、「人に手伝わってもらうのは申し訳ない」「行政に頼んだから大丈夫」という地域と、「災害ボランティアの力を貸してもらおう」「経験者に助言してもらおう」という地

域の2つがあった場合、後者が受援力が高く、作業が早く進むことになります。

受援力を高めるためには、災害時に私たちの地域は何が困るか、どんな強みがあるかを体験の共有やシュミレーションをして話し合う必要があります。

地域の復興は、とても長い時間がかかります。地域独自でできることもたくさんあると思いますが、ボランティアの力を借りて、その後の復興を見据え、力を温存することも大事だと考えます。

最後に、公衛協活動の可能性についてですが、私は、今回初めて公衛協について知りました。5つの役割に照らして話をしていきます(※5つの役割に触れていただきましたが、1例のみ掲載しています)。

災害ごみは、環境省が指定する9の分類で集積され、分別されて処理されます。ニュースなどでは分別無しで積みあがったごみの山が映ったりしますが、こうなる前に自治会で0次置き場を作れないでしょうか。分別方法の案内や指導なども行い、ごみ処理にかかる費用が抑えられれば、復旧・復興に活かせるかもしれません。

このケースは0次置き場の現状復旧をどうするかを整理することが、成否のポイントとなります。この部分は、行政と協力することで土地提供者の不安を取り除く方法があると思います。

災害時には、皆さまの活動がなくてはならないというシーンがあると思います。その時、その役にになれるかは、平時からのコミュニケーション、準備が必要不可欠です。今日の話がそのためのきっかけになれば幸いです。

(文責：地域活動支援センター)



公衛協から災害支援のお礼が伝えられる

防災・減災事業「共助井戸」

2日目は、防災をテーマにした研修を行いました。

「災害時の受援力と多様な主体に

よる協働と公衛協活動の可能性」という演題で、ひろしまNPOセンターの増田理事にご講演いただきました。

(同面講演要旨参照。地域で起こりうる災害について知り、備える事と、ボランティアやNPO等が行う支援

を知ることで、平時から『受援力』を意識することの大切さが分かる事例を紹介いたします。

その後、2日間を通しての修了式が行われ、竹原市公衆衛生推進協議会の岩崎会長に修了証が手渡されました。



ボールストレッチを体験する参加者(上)、受援力について講演するNPOセンターの増田理事(中)、活動を紹介する福山市公衛協の園尾会長(下)

紹介した事例を

午後からは、昨年度、共助井戸に取り組んだ廿日市市大野公衛協、三次市田幸地区公衛協、福山市公衛協から、それぞれ広域型、拠点型、モデルづくりに取り組んだ事例を発表いただきました。

当協会が発行した「令和3年度地域活動支援基金活用事業活動報告書」には、事例発表をした公衛協の活動概要を掲載しておりますので、皆さまの活動にお役立てください。(地域活動支援センター)